

まなびの広場
稲進会
教室通信

彩色いろいろ

『限られた席』

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

年末年始、様々なスポーツが一年の総決算となる試合を繰り広げていました。ちなみに、私の応援するチームはことごとく負け…、でした(；_；)。

スポーツもこれから本番をむかえる受験にも言えるのですが、望む席というものは限られているという現実があります。

例えば、正月の風物詩『箱根駅伝』、優勝を目指す大学は複数あれども優勝できる大学はたった1校です。今年であれば青山学院大学。圧勝でした。様々な媒体で青山学院大学の指導法が取り上げられ、絶賛されています。では、他の大学の指導者が怠慢だったのか、選手たちは練習を怠っていたのか。決してそんなことは無いはずですが。ただ優勝大学は1校という現実があるだけです。

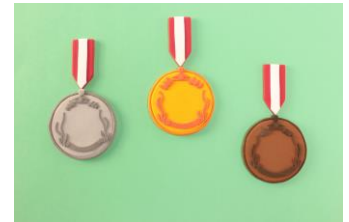
受験においても、どんなに入学を希望していたとしても入学できる数(=合格者定員)の中に入らなければ入学することは出来ません。

世の掟、ルールとも言えるのでしょうか、あらゆる場面において席の数というものは限られています。しかも高い水準を求めれば求めるほど席の数は少なくなり手に入れ難くなります。

箱根駅伝に出場することを目標とする大学、箱根駅伝での優勝を目標とする大学、目標達成の席の数、席につける難しさは当然違います(※箱根駅伝に出場することもとても大変なことです)。受験も志望校を高くすればするほど合格できる可能性は下がっていくものです。

「勝負は勝たなければ…」、「受験は合格しなければ…」、そうした言葉の中にももちろん意味や価値はあるのだと思います。でも、それが絶対的なものかと言えば、私はそうは思えません。どれだけその過程を大切にしたら、自分に厳しくあれど、そこに大きな意味があるはずだと、結果として臨んだ席につけなかったとしてもいち早く次に目指す席を探し、見つけ、手に入れるための行動に移る、そうした強い気持ちを持てるような自分自身でありたいし、生徒たちにも伝えて行きたいと思っています。

応援するラグビーチームが負け、それに対する批判を目に耳にする中で感じたことです。今年はテレビ画面の中でしか応援できませんでしたが、選手はひたむきに頑張っていました。負けて一番悔しいのは選手自身です。周りごとやかか言うことではないですね。来シーズンに向け、また新たな一歩を力強く踏み出すことを願うばかりです。



教室の風景

「折り紙」

あけましておめでとうございます。今年一年も、生徒の皆さん全員の大成長を願っております。どうぞよろしくお願い致します。

さて、毎年正月になると、恒例の親戚の集まりがあります。私は毎回、親戚の子どもたちと遊んでおります。いろいろ遊ぶ中、折り紙を折ることになりました。みんな今年の干支である簡単な猿を折っていました。私はちょっとカッコいい所を見せようと、難しいティラノサウルスに挑戦してみました…、が、みなさん、折り紙と言ってナメたらいけません！ああでもないこうでもないで試行錯誤して1時間、子ども達は「外でサッカーしようよ」と何度も誘って来ましたが、私は「あと、もうちょっとで出来る」と粘りに粘って、ついにティラノサウルスが完成しました。子どもたちが折り紙には飽き飽きしている中、一番喜んでいたのは私自身でした(笑)。

折り紙は1枚の紙さえあれば出来る手軽な遊びです。しかし、非常に奥が深いのもまた折り紙の特徴です。『ORIGAMI』と言えば世界共通語で、海外にも多数のアーティストがいますし、折り紙を応用して、コンパクトに折りたためるソーラーパネルを搭載した人工衛星なども研究されています。日本の素晴らしい伝統的な遊びであり、まさに『Cool Japan』です。大人でも頭を使いますし、何よりお金がかかりません！某なんとか堂のゲームより格段に安上がりです。たまには子どもと一緒に、折り紙で遊ばれてみてはいかかですか。



インストラクター 伊勢豊

1月作品紹介 『お正月に関係したもの！』



おせち料理



賽銭箱



おみくじ



(左2つ)鳥居

